

令和 7 年度第 2 回防府警察署協議会会議録

開催日時		令和 7 年 1 0 月 6 日（月） 午後 3 時 0 0 分から午後 5 時 0 0 分までの間
開催場所		防府警察署 3 階 講堂
出席者	委員	池永委員、中司委員、佐戸委員、山下委員、松本委員、 島田委員、有近委員、桃井委員 <div style="text-align: right;">計 8 人</div>
	警察	署長、副署長、主幹、警務課長、警察安全相談課長、 生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、 交通課長、警備課長 <div style="text-align: right;">計 1 1 人</div>
議題		1 業務説明 2 情勢に応じた合理的な交通規制の実施及び良好な自転車 交通秩序実現のための取組
<p>1 会長挨拶 お忙しい中、暑い中でのご出席に感謝申し上げます。 室田委員の後任として、今回から新たに桃井委員が加わった。今までとはまた違った意見が出てくると期待している。 本日の諮問事項は、「情勢に応じた合理的な交通規制の実施及び良好な自転車交通秩序実現のための取組」という議題であるが、忌憚のない意見をいただき、有意義な会議にしたいと考えている。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 業務推進状況の説明（署長） 令和 7 年 8 月末までの業務推進状況について、以下の項目に沿ってパワーポイントで説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 犯罪抑止対策の推進状況 ○ 少年非行の現況 ○ 交通事故抑止対策の推進 ○ 地域安全活動の推進 <p>4 前回の諮問事項「匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策」及び質疑があった事項に関する対応状況の報告（生活安全課長、交通課長） (省略)</p> <p>5 業務推進状況に関する質疑等（委員） 物損事故の発生件数が増加しているが、どのような傾向の事故が多いのか。</p>		

(交通課長)

物損事故で件数が一番多いのが追突事故で、次に多いのが出会い頭の事故である。

(委員)

うそ電話詐欺被害認知状況の説明で、高齢者が被害に遭うことが多いと思っていたが、20歳代から40歳代でも被害に遭うことが分かった。

会社内で交通安全等の呼びかけはしているが、今後は、社員から被害者を出さないという意味からも、詐欺被害防止教育も実施しようと感じた。

(委員)

若い世代でも詐欺被害に遭うことを知り驚いた。

若い世代への被害防止の呼びかけについては、SNSの活用が有効だと思う。

(委員)

若い世代の詐欺被害防止については、両親など家族に相談できる関係性があると被害防止につながると思う。

自転車の交通ルール改正についても、子供が検挙されるたびに家族が反則金を支払うこととなるため、家族内での教育も大切だと感じた。

(委員)

自転車の飲酒運転が増加している原因として、ルールの認識不足や周知不足が挙げられる。自転車であっても飲酒運転になると認識していない人が多いので、しっかりとした周知が必要である。

(委員)

「周知徹底や教育」という点では、生活のマナーや交通ルール、SNSの使い方など、基本を幼い頃からしっかり教育していくことが大切だと思う。

6 諮問事項説明「情勢に応じた合理的な交通規制の実施及び良好な自転車交通秩序実現のための取組」(交通課長)

以下の項目に沿ってパワーポイントで説明を行った。

- 情勢に応じた合理的な交通規制の実施
 - ア 交通実態に即した交通規制の実施
 - イ 効果的かつ効率的な交通安全施設等の設置
 - ウ 交通実態の調査・分析
 - エ 交通規制の見直しのポイント
- 良好な自転車交通秩序実現のための取組
 - ア 自転車の交通事故情勢
 - イ 情勢を踏まえた取組状況
 - ウ 今後の課題

7 協議

(委員)

信号機など交通規制の見直しに関して、道路の新設や施設の移転に伴って、

新たな信号機や規制が設置されることが予想される。地区住民や小・中学校へ早めの説明をお願いしたい。また、自転車の交通ルール周知に向けた効果的な取組方法について、具体的にどのような取組をしているのか。

(交通課長)

基本的に道路が新しくなる場合は、事前に道路管理者と協議し、その中で新たに信号機や規制標識を設置する場合は、住民の方に対し、早めの広報や説明をするように心掛けている。

自転車の交通ルールの周知徹底については、どの年齢層にも等しく周知できるよう広報している。

県警察のSNS、YouTubeやX（旧ツイッター）などの動画配信や高校生・企業の協力を得たCM作成、回覧板や警察官による巡回連絡での資料配布などを実施している。

(委員)

交通規制や自転車の交通ルールなどは、冊子を見たり聞いたりするだけではなかなか理解できない。

実際の道路や教習所の施設を利用した、体験型学習の機会を増やせばより理解できるのではないかと思う。

(委員)

自転車の交通ルールなど、子供は分からないことがあれば親に聞くが、その親も明確な回答をする自信がないと思うので、子供と保護者が一緒に学習できる「親子講習」があればいいのではないだろうか。

(委員)

自転車に乗る学生たちは、ある程度交通ルールの教育を受けているが、運転免許を持っていない方が自転車を利用すると、交通ルールの理解度が低いと思う。

自転車の利用者が集まるスーパーなどで、交通教室を開催してはいかがだろうか。実現できるかは別として、タイアップするスーパーなどの協力を得て、ヘルメットを着用し、自転車で来店した人には、ポイントを付けるなど工夫が必要だと思う。

(委員)

交通規制や自転車交通ルールの広報で、「どこでどんな体験をした」というような「ヒヤリハット体験」をSNSで収集することも一つの方法だと思う。そういった意見を集めて検討すれば、合理的な交通規制や良好な自転車交通秩序の実現へつながると考える。

(委員)

交通ルールの周知徹底は、教育コンテンツをいかに多くの方に見てもらえるかが重要だと思う。

最近の学生は学校から配布されたタブレットを持っているので、小学生に対す

る交通ルール教室を開催する際に、タブレット内に保護者向けの動画を添付し、保護者に見てもらうことで大人に向けた教育になる。また、子供と家族と一緒に視聴できる教育動画を配布するなど、一つの機会により多くの方に行き届く工夫が大切だと思う。

そのような教育動画があれば、各企業の研修会などでもデータとして配布しやすいのではないだろうか。

(委員)

子供や大人への交通ルールの周知の話は出ているが、外国人への周知の仕方についても考える必要がある。

技能研修など、企業で働く外国人が多いので、企業の協力を得た交通ルールの教育や外国人だけが参加する交通教室などを開催するのも効果的だと思う。

(委員)

視覚的に訴える周知方法として、単純ではあるが、誰もが一目で分かるようなポスターの掲示も有効だと思う。

学校、駅、スーパー等施設の駐輪場にポスターを貼り、短いスパンで新しい内容のものに張り替えていけば、関心も高まると考える。

8 配布資料

- 業務説明資料
- 諮問事項資料